

若手研究者コラムリレー

舟木 泰世 (ふなき やすよ)



プロフィール

尚美学園大学スポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科 専任講師
日本体育・スポーツ・健康学会の専門領域: 体育社会学

佐賀県生まれ

2005年 順天堂大学スポーツ健康科学部スポーツマネジメント学科卒業
2008年 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士前期課程修了
2013年 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程単位取得満期退学
2013年から文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ振興課 専門職、
スポーツ庁健康スポーツ課 係長、至学館大学助教を経て、2020年より現職

E-mail: y-funaki@s.shobi-u.ac.jp



後列左端が筆者(基礎ゼミ・バレー大会)

わたしの研究



地域スポーツの推進と スポーツによる地域活性化

私が生涯スポーツに興味を持ったきっかけは、学部時代の生涯スポーツ論の授業で観た「カナダ・フィットネス週間」の風景でした。チャレンジデーなどの映像だったと記憶していますが、ビジネスパーソンがスーツ姿のまま運動を楽しんでいる姿に衝撃を受けました。運動やスポーツをする際は、ジャージなどの動きやすい服装でなければならぬと思い込んでいましたが、服装は関係ないのだと気づかされましたし、そのような気軽に・誰でも・いつでも参加できる環境を整えて提供することが重要なのだと考えました。これを一つのきっかけとして、総合型地域スポーツクラブを主なテーマとしてスポーツが地域にもたらす影響などの研究を行ってきました。

現在は、地域スポーツ政策に関する研究を中心に行っています。地域スポーツの政策遷移をみると、スポーツ振興という観点からは、地域スポーツクラブの育成に注力されてきました。最近では、スポーツを活用して地域を盛り上げる施策が全国各地で行われています。このコロナ禍において、地域におけるスポーツ活動がこれまでどおり行えず困難な状況にあるとの報告もありますが、地域スポーツ自体を盛り上げることとスポーツを一つのコンテンツとして地域を盛り上げることの両方をバランス良く推進していくことが必要ではないかと考えています。

わたしの渾身の論文・書籍・記事

舟木泰世, わが国における地域スポーツ政策の変遷: 近年の地域スポーツ政策に着目して (特集 地域スポーツ政策のいま)." 日本地域政策研究24: 22-29, 2020

(なんでも帳)



大学卒業後は埼玉県で総合型地域スポーツクラブ育成支援に関する仕事をしていました。私は埼玉に縁もゆかりもありませんでしたので、勤務初日の帰りに埼玉県の地図を購入し、市町村を覚えることから始めました。それから、地域の方々と一緒に総合型クラブ育成に関わる中で、さまざまなことを教えていただき、地域スポーツは地域の方々の支えがあってこそ成り立つものだとも痛感しました。埼玉県のほかに、東京都でも総合型クラブ育成に関わりましたが、東京都と埼玉県ではクラブの成り立ちや運営スタッフとなる人々の属性が異なったりと、地域によってクラブ育成は多様だということ学びました。

その後、文科省とスポーツ庁で地域スポーツに関する業務を担当する機会を得ることができました。これまで学んできたことを生かすとともに、新たにスポーツ行政やスポーツ政策の立案過程についても実地で学ぶことができ、現在の研究テーマにつながっています。

また、最近は地域コミュニティを支える“人”に興味を持っています。地域スポーツの重要な担い手は地域の人々が中心になりますが、社会参加という視点から地域とスポーツを捉えてみたいと思っています。

日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育・スポーツ・健康学会若手の会が発足しました! → [メーリングリスト登録フォーム](https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fy3kcB5q2):
<https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fy3kcB5q2>



学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。
taikugakkaiwakate@gmail.com (担当: 木村)